

生まれてくる赤ちゃんのために「風しんワクチン」

妊婦、とくに妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど、赤ちゃんがそのような生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しんの予防接種を受けることをご検討ください。

風しんの特徴

- 今は成人に多い病気で、特に10代後半～50代前半の男性、10代後半～30代前半の女性が多く発病しています。
- 特に昭和54年4月2日～平成7年4月1日生まれの男女は接種率が低く、昭和54年4月1日以前生まれの男性は子どもの頃に定期接種のチャンスがありませんでした。
- 風しんの予防接種は、はしか(麻疹)も一緒に予防できる麻疹風しん混合ワクチン(MR)で受けることをお勧めします。

女性は・・・

- 妊娠前に風しんの予防接種をご検討ください。
- 接種後2カ月は避妊が必要です。接種回数は子どもの頃の接種を含めて2回です。

男性は・・・

- 風しんにかかったことがない方、風しんワクチンを受けていない方、どちらも不明の方、いずれも接種することをご検討ください。2回接種しても問題はありません。

お子様は・・・

- 1歳児(第1期)と、小学校入学前1年間(第2期)は忘れずに麻疹風しん混合ワクチン(MR)の定期接種を受けましょう。
- MR 第1期：1歳から2歳になるまでの1年間(男女とも)
- MR 第2期：平成19年4月2日～平成20年4月1日の間に生まれたお子さま(男女とも)

妊娠中の女性の家族は・・・

- 風しんの予防接種をご検討ください。
- 妊婦は風しんの予防接種を受けられません。周りのご家族が風しんを予防し、妊婦さんへの感染を防ぎましょう。

詳しくは、かかりつけの医院にご相談ください。

